

結核について

都の結核の発生状況（平成 28 年）

新登録患者数 2,340 人

り患率* 17.2（全国 2 位）（*り患率：人口 10 万人当たりの患者数）

死亡者数 212 人

結核の症状

咳・たん、胸痛などの呼吸器症状に加え、発熱（微熱）、体重減少、寝汗、強いたるさなどがあり、症状が長く続く場合には注意が必要である。

結核の感染経路

空気感染する病気。通常は菌が肺の末端（肺胞）に入ったときのみ感染し、衣服や皮膚、水、食べ物からは感染しない。

結核の感染と発病の違い

感染

結核菌が体内に入っているものの何の症状も示していない状態。他人に感染を広げる可能性はなく、各種検査でも異常はない。少ない量の抗結核薬を内服することで発病を抑えることができる。なお、感染したもののうち、発病するのは約 10–20%で通常 6 か月から 24 か月の間に多いとされる。

発病

結核菌が体内で増殖し、身体に何らかの異常や症状を引き起こす状態。菌が少ない初期には感染性はないが、病状が進行すると咳やたんの中に菌が大量に排出され（排菌）、感染拡大につながる。

接触者健診

患者が発生したときその接触者に対して、感染や発病の有無を調べるために実施する検査。通常は接触状況に応じたグループ分けをし、接触度の高いものから順に検査を行う。

なお、検査には以下のものがある。

- 発病の有無を調べる検査：胸部エックス線検査など
- 感染を確認する検査：血液検査、ツベルクリン反応検査など

集団感染

国への報告が必要となる集団感染事例においては、集団感染とは、同一の感染源が 2 家族以上にまたがり、20 人以上に結核を感染させた場合をいう。但し発病者 1 人は 6 人に感染したものとす。